

新年、祈りの水行会 大分市 法心寺



経を唱えながら冷水をかぶる僧侶＝11日、大分市鶴崎の法心寺、撮影・仲道裕司

大分市鶴崎の法心寺（佐々木浩文住職）で11日、新年恒例の水行会があった。締め込み姿の僧侶7人が無病息災と交通安全を祈願した。

1961年に始まった伝統行事。僧侶は経を唱えな

がら、たるから手おけで水をすくい、頭上から勢いよくかけた。檀家の婦人部員約20人が、うちわ太鼓を打ち鳴らした。

境内では檀家でつくる蓮の会（佐藤悦子代表）が参拜者にせんざい約100

食を振る舞った。責任総代の植木久俊さん（72）＝同市東鶴崎Ⅱは「新型コロナウイルスの早期収束を」、佐々木住職（61）は「世の中が安泰になるように」とそれぞれ願った。

（坂本陽子）

大分合同新聞 2023年1月12日（木）朝刊 1面

